

稻梓地域景観ガイドラインについて

現在、下田市を6地域（稻梓、下田・本郷、白浜、朝日、蓮台寺、浜崎）に区分した上で、地域の景観特性に応じた景観形成方針、景観形成基準をきめ細やかに個別策定することを目的に、令和7年度から複数年をかけて市内全域で地域住民によるワークショップを開催し、地域別の景観ガイドラインを作成しています。

令和7年度は稲梓地域の景観ガイドラインを作成することを目的に、全4回（10月17日、11月14日、12月12日、2月6日）、稲梓基幹集落センターにてワークショップを行っております。

ガイドラインを作成するとどうなるの？

地域ごとに詳細な方針、基準を記載することによって、その地域が有する景観特性を住民のみならず、関係する全ての人が理解でき、市民と事業者、市が協働で地域の景観整備・保全を図ることができます。

また、建築物や工作物について届出を市に提出することが必要となり、ガイドラインに沿うよう指導することもできます。

今後の地域別景観ガイドインスケジュール

※今後変更となる可能性があります。

令和7年度 (※今年度)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
稻梓地域	下田・本郷地域	白浜地域	朝日地域	稻生沢地域	浜崎地域



認定番号 151：稻梓の稲作風景

ワークショップの様子（第1回）

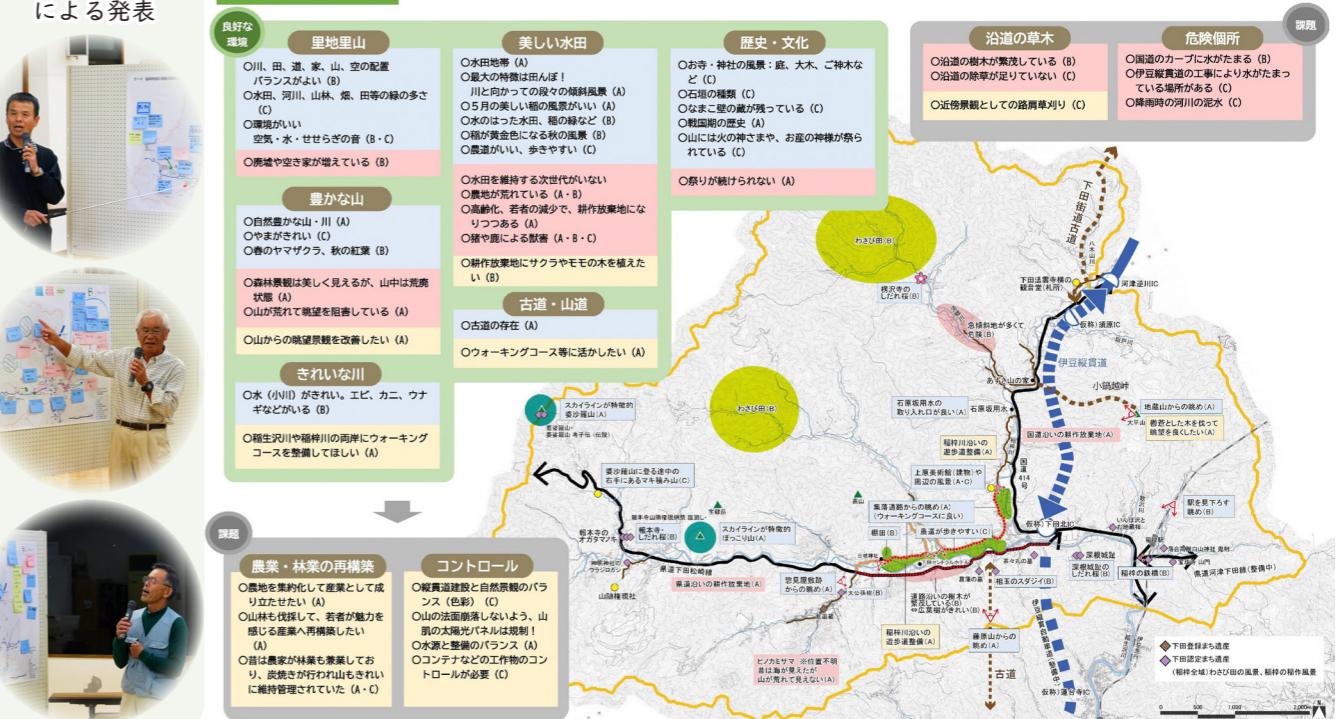


第
1回

1回結果まとめ

テーマ『稲作地域の景観の現状と未来について考えよう！』

- 日例　　良い所・好きな所　改善したい所・よくない所　根深く取扱組むべき問題



ワークショップの様子（第2回）



100

1

二、論述題

- 回結果まとめ <テーマ> 『基本目標（将来像）と景観形成方針について考えよう！』

基本目標（案）	凡例 良い点・重要な点に感じた点、修正してほしい・疑問点、提案、その他意見
---------	---------------------------------------

※主な見解を掲載しています

稲作の里地里山を守りたい

ひと・農・自然が共に生きる稲作の景観づくり

丘谷、段丘が織りなす稲作の里地里山は、四季折々の自然に包まれ、農の営みと人々の暮らしと共に息づいています。自然を大切にしながら、先人たちが育ててきた田畠や山林、集落、伝統行事などの風景を次の世代へと引き継ぐため、「ひと・農・自然」が共に生きる稲作の景観づくりに取り組みます

表現

 - されいな言葉、理想的（C）
 - 「守りたい」では弱い。攻めの姿勢がほしい（B）

取組の主体

 - 様々なことを「引き継ぐ」のが難しい（例 農業後継者の問題）（B, C）
 - 市や地域外の人の協力があれば住民も「やってやろう」の気持ちになる（B）

山・川の豊かな自然環境と美しい農地景観を守る

地域を囲む山々の緑豊かな景観を守るために、森林の整備や管理を進めます
山頂からの眺め、特徴ある山並みを守ります

河岸段丘の水田ではじめる美しい農地を守り、再生させていきます
山あいに広がる畠やわたりやひだ田など、この土のならではの農地を守ります

稲作（ハリケン）など河川がつくつる水辺の景致をきこに保ち、地域の暮らしや観光に生かします
良好な景観を残すうおそれのあるものに対して、適切に改善し、少しずつ整えていきます

（例：太陽光発電設備、屋外広告物、目立つ派手な建物、鉄塔、基地局アンテナ等）

森林・農地

 - 高齢化で管理を担う人がいない。「管理」の生産化が必要（B）
 - 森林の景観的な管理は難しい。県や国に頼るしかない（C）
 - 農地の維持が不安で、耕作放棄地の管理も十分でできない（B, C）
 - 古道や山の道を活かす（ただしあげせうなのは小鶴越崎くらい）（A）

水源地・源泉

 - 稲作には「水（水源）の保全」という役割がある（A）
 - 外から来る人（工場設置者等）にも水質保全を意識してもらう（A）
 - 源泉があるので、温泉を活かしたい（A）

河川

 - 河川の整備改修は多自然手法で（C）
 - 河川管理にリバーフレンドシップ制度が使えてない（C）
 - 河川沿いに歩道を整備できればウォーキングコースになる（A）

建物・外構

 - 「まちの魅力として生かしていきます」とは具体的になにをするのか（B）
 - 建物へのルールが住民の負担になることを懸念する（B）
 - 地産地消の実用性や地域景観の向上につながることがある。林業再生が重要（A）
 - 石積みの保全には市との補助などの費用面での支援が必要（A）
 - 空き家バンクの登録が進まない（C）

景観阻害要素

 - 例にある「屋外広告物」は「違法屋外広告物」としたほうがいい（C）
 - 「鉄塔」のコントロールは難しいのでは（C）

道路

 - 道路から見えて魅力的な景色をつくる。山には四季を感じる広葉樹林を（A）
 - ガードレールや防護柵は茶色の色で（A）
 - （加曽野では）道路わたりに花を植える活動が広がっている（C）

インテグレーション

 - 伊豆縦貫道 IC の新設は地域の再生や魅力向上のきっかけになる（B）
 - ICができると、集落道路の往来が減り寂しくなるかもしれない。にぎわいづくりや、ICから降りてみたくなる風景づくりが必要（A）